

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「思いやりの心を持ち、自分らしさを発揮して粘り強く最後まで取り組む子」
 ○主体的に課題に取り組む、豊かに伝えようとする子を育てます。(知)
 ○思いやりの心を持ち、豊かな関わり合いの中で自他を大切に育てます。(徳)
 ○心や体の健康や安全に関心を持ち、たくましく生きる力を育てます。(体)
 ○地域とのかかわりを大切にし、地域や社会のために自ら実践する力を育てます。(公)
 ○伝統や文化を尊重し、人とのコミュニケーションを通して、世界の中で共に生きていく力を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

主体的に取り組み、豊かに伝え合う子 《言語能力》 豊かな関わり合いの中で自他を大切に する子《自分づくりに関する力》	具体化した資質・能力
	感じたことを言葉にする力 身近な語彙の豊かさ 伝える内容を明確にする力 自分らしさを発揮しようとする姿勢 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢

中期取組目標

○主体的に取り組み、豊かに伝え合う子を目指します。
 1年目は、特に話す力。順序だてて話をまとめ、相手意識をもって伝えられるようにします。
 2年目は、特に聞く力。自分事とらえながら聞き、友だちの考えの良さを生かす力を育てます。
 3年目は、特に伝え合う力。伝え合い、高め合う心を育てます。
 ○豊かな関わり合いの中で自他を大切に育てる子を目指します。
 3年間を通して、一人ひとりが自己肯定感と自尊感情を高め、友だちのよさを認め、高めあえるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	①市学習状況調査を分析し、「順序だてて話をまとめ、相手意識をもって伝えられる」ようにするために、各学年の実態に合った具体的取組を実践していく。②重点研の研究テーマを「豊かに伝えようとする子の育成」と設定し、算数の学習の中で、「考えの良さを伝え合う」ことで、友達のよさを認め、高めあえるようにする。
担当	推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 昨年度の学習状況調査(予備調査)の結果やこれまでの傾向から、本校は学力において、学年における差はあるものの、市の平均と差はなくなっており、学習の積み重ねが感じられる。市の平均を下回っている学年においても、学習意識は高く、勉強を「楽しい」と感じる児童が増えている傾向にあることがわかる。また、学力の高い低いにかかわらず、少人数指導等を充実させている学年に、学習を「楽しい」と感じている児童が多いことが分かった。
 指導体制等を工夫することで、子どもは「楽しい」と感じ主体的に学習に取り組めると考える。そのような授業の展開を講じることで、基礎・基本の定着だけではなく、思考力もつけていくことができると考える。

(2)重点研究会では算数を取り上げて3年目になる。また、重点研究のテーマ「豊かに伝えようとする子の育成」は、6年目となる。テーマに沿って教師の指導力を高めてきている。
 また、3年生以上では教科担任制も取り入れ、教材研究も深められている。

今年度の目標

基礎・基本の定着を図るとともに、語彙を増やし、伝える内容を明確にする力を培う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	(1)子どもが楽しいと実感できる指導の工夫(一人ひとりが自己肯定感と自尊感情を高めるために) ○指導体制の工夫 1・2年生 学年付の教師も含めた、指導体制の構築 3・6年生 教科担任制の取組 ・多くの職員が子どもたちに関わることで、子どもたちが安心して学習できる体制とする。 また、子どもの実態を的確にみとること、一人ひとりのニーズに合った指導をする。 ○基礎基本の充実 ・「できた」を実感できるように、一人ひとりの基礎基本の定着を図る。 (2)重点研究会による指導力の向上(順序だてて話をまとめ、相手意識をもって伝えられる力のために) ○重点研究のテーマ「豊かに伝えようとする子の育成」に向けた研究 ○3年生以上で教科担任制を実施することで、教材研究を効率よく深め、指導に生かす。
下半期	(1)子どもが楽しいと実感できる指導の工夫(一人ひとりが自己肯定感と自尊感情を高めるために) ○指導体制の工夫 前期の実践を振り返り、より充実した取組になるようにする。 ・6年生の算数少人数では、習熟度別などグルーピングの工夫をし、一人ひとりが安心して学習できることを目指す。 ○基礎基本の充実 ・「できた」を実感できるようにするために、一人ひとりの基礎基本の定着を図る。 (2)重点研究会による指導力の向上(順序だてて話をまとめ、相手意識をもって伝えられる力のために) ○重点研究のテーマ「豊かに伝えようとする子の育成」に向けた研究 ○研究授業を通じた、授業改善・指導力の向上を一層充実させる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①道徳の時間に協働的な学びを生かした指導の工夫をすることで、道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深め、自尊感情を高める。②異学年交流(いちろく活動)や集団活動を通して、お互いに思いやりの気持ちをもって行動し、一人ひとりを大切にしようとする子どもを育む。
担当	道徳部・いちろく部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
 ・小菅ヶ谷ルールを理解して、ルールによさに気が付き、それを守ろうとしている姿が見られる。
 ・普段の学習や生活の中では、男女の隔たりが無く、協力して取り組むことができる。
 ・自分の思いをうまく表現し、友だち同士で交流し合っており、思いを深めることが難しい。

(2)これまでの学校の取組状況
 ・道徳教育用教材の活用を図った道徳科の授業のあり方を研究し、自己を見つめる力を育成してきた。
 ・保護者地域等を対象とした授業公開を行い、連携を図った。
 ・自他を大切に育てる豊かな心を育むための、異職種交流やたてわり活動(いちろく活動)を計画的に実施してきた。

今年度の目標

①道徳の時間に協働的な学びを生かした指導の工夫をすることで、自尊感情を高める②いちろく活動でお互いに思いやりの気持ちをもって接し、相手を大切にしようとする心情を育む

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	・自己との対話を通して、自分を見つめる力を育成できるように、授業改善をする。 ・道徳教材を活用し、子ども自身が物事を多角的、多面的に考えられる力を身につけるようにする。 ・各教科の指導目標の達成を目指す中で、道徳教育との関連を踏まえ、道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を養い、道徳性にかかわる実践的態度を養う。 ・学校や学級づくりのために、自己の責任を果たす態度、多様な他者と互いのよさを認め合って協力する態度、規律を守ろうとする態度などを養う。 ・異学年交流(いちろく活動)を通して、異年齢の子どもたちがお互いの立場を思いやって集団活動をする。
下半期	・自己との対話を通して、今の自分の考えを肯定的に受け止められる児童を育てられるように授業改善をする。 ・多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協議したりしながら、物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ・学級会、児童会、クラブ活動、学校行事などにおいて、「望ましい集団活動」を展開し、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性を育成する。 ・異学年交流(いちろく活動)を通して、異年齢の子どもたちがお互いの立場を思いやって集団活動をし、お互いを大切にしようとする心情を育てる

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体力向上を図るために体育委員会を中心に「RUNRUNタイム」を実施し、楽しく体を動かす機会を設定する。②自らやグループの課題を把握し、友達との話し合いや助言で解決していく学習形態の工夫をすることで、主体的に運動に取り組む子どもの育成を図る。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
 ・休み時間に外遊びをする児童は毎年多くはなく、外遊びに対する意欲が低い児童がいる。また、新型コロナウイルスの影響で例年行っていた「RUNRUNタイム」を2年間実施できていないため、休み時間に外に出る習慣が身につけていない児童もいる。
 ・体育学習などの様子から、以下のような児童が見受けられる。
 ①ボールを片手でしっかりと投げられない児童が多い。(ボール運動系)
 ②思いっきり走る機会が少ない児童が多い。(陸上運動)
 ③短縄の操作の仕方を知らない、慣れていない児童が多い。(体づくり運動・用具(縄)操作)
 ④鉄棒の様々な上がり技、回転技、下り技を知らない、慣れていない児童が多い。(鉄棒運動)
 ⑤マットの両腕で体を支える動きや、壁倒立の逆さ感覚などに慣れていない児童が多い。(マット運動)

※体力・運動能力調査や横浜市学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査の結果に基づく、児童生徒の状況
 ※日々の学習評価に基づく、児童生徒の状況
 ※実態把握に関わる客観的なデータを可能な限り貼付する
 (横浜市学力・学習状況調査 生活・学習意識調査 横浜市体力・運動能力調査 全国学力学習状況調査 児童生徒質問紙 Y-Pアセスメント 学校独自のアンケート等)

今年度の目標

・「RUNRUNタイム」では、短縄に取り組み、運動する習慣がつくようにする。
 ・体育の授業の中でお互いの技を見る時間を取り、感想を話すことができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	【教科】 <<低学年>> ・体育科では、体づくりの運動遊びの学習で伸び伸びと体を動かす楽しさや心地よさを味わうことをねらい、運動好きになることを目指す。 <<中学年>> ・体育科では、器械運動の学習で友だちと技のできばえを伝え合いや学び合いで対話することをねらい、課題を解決しながら学習に取り組むことを目指す。 <<高学年>> ・体育科では、陸上運動の学習で自己やグループの課題を見つけ、その解決をすることをねらい、友だちと取組や考えを伝え合うことを目指す。 【課外活動、特別活動など】 ・「RUNRUNタイム」では、運動委員会を中心として短縄カードを作成し、自己の目標達成にむけて取り組めるようにする。 ・保健委員会や給食委員会の活動を通して、基本的な生活習慣や食習慣を身につけるようにする。
下半期	【教科】 <<低学年>> ・体育科では、器械・器具を使つての回転、支持、ぶら下がりなどの基本的な動きができることをねらい、基礎となる感覚を身に付けることを目指す。 <<中学年>> ・体育科では、保健の学習で毎日の生活や体の発育・発達に関心をもつことをねらい、健康的な生活習慣について得た情報から思考を深め、自己の考えを他者に伝えることを目指す。 <<高学年>> ・体育科では、ボール運動の学習で集団対集団で運動する楽しさや喜びを味わうことをねらい、チームで作戦を立てたり課題を解決したりすることを目指す。 【課外活動、特別活動など】 ・運動会では日常の体育学習の成果を発表する演技や競技の場として、目標達成に向けた自己実現の喜びを味わうことをねらい、 ・学校保健委員会では、保健委員会を中心に体力向上や健康に関するテーマを設定し全校で取り組む。